

検証の具体的な内容について（案）

検証内容の検討方針

試行的評価の諸要素に関する概念図⁽¹⁾（別紙参照）の構成
概念図に含まれる諸要素に関する検証事項の検討⁽²⁾（本資料）
新たに収集すべきデータに関する具体的かつ詳細な項目の整理（別紙アンケート調査素案参照）
収集されたデータ・資料の分析と総合的解釈
試行的評価の目的等達成度・適切性等の検討（「検証」の目的）

- (1) 諸要素間の関係性の詳細については追って検討し、報告書には、それをも含み込んだ「ロジック・ダイアグラム」として掲載する予定。
- (2) 「メタ評価」に際して一般的に検討すべき事項としてあげられている観点*などを参考に、個々の諸要素の状況、要素間の関連性などについて明らかにするための、検証の「視点」、及び、必要とされる「資料」などを取り上げる。

*例えば、OECD（経済協力開発機構）のDAC（開発援助委員会）の以下のような基準がある。
妥当性（relevance）、 目標達成度（effectiveness）、 効率性（efficiency）、
インパクト（impact）、 自立発展性（sustainability）

試行的評価の「目的」及び「目標」

「目的」（全体的な意図・基本的方針・基本的性格・達成しようとする基本的成果）
大学等の教育研究活動等の改善に役立てる。
社会からの理解と支持が得られるよう支援・促進する。（*accountability*）

「目標」（「目的」を達成するための具体的な課題）

- (a) 大学等の個性を伸ばす評価
- (b) 大学等の主体的な改善を促す評価
- (c) 持続可能な評価
- (d) 公平な評価
- (e) 社会が大学等の状況を把握できる評価 *etc.*

以上の「目的・目標」に即して、試行的評価の基本的枠組み・実施体制・評価プロセス・結果・成果・「目的・目標」の達成度について検討

試行的評価の基本的枠組みの検証

「評価の基本的枠組み」 （「大学評価実施大綱」などに記載された評価方法の基本的方針）

複数の評価手法 （書面調査・ヒアリング・訪問調査 *etc.*）

多面的評価 （分野別教育・分野別研究・学部/研究科別・全学テーマ・項目別評価 *etc.*）

適切な評価単位ごとの評価

目的及び目標に即した評価 （目的・目標は直接評価しない評価）

大学等の自己評価を基本とする評価（自己評価に基づく評価）

専門家を中心とした評価 （ピア・レビューに重点を置いた評価）

明確な根拠に基づく評価

効率的な評価

透明性の高い評価（「意見の申立て」の公表、評価者の選考、評価方法の公表 *etc.*）

適切なフィードバック・公表

【検証の視点と必要とされる根拠資料・データ】

(a) 目的・目標の達成のために、以上の「基本的枠組み」の設定が適切であると思われるか。

データ： 収集の必要性あり 大学関係者等への別紙アンケート調査「1.」等

(b) 「基本的枠組み」で意図された事項が、実際の評価によって達成されたかどうか。

データ： 評価報告書・実施済みアンケート調査・試行的評価に関する他の検証データ等
新たに収集するデータ 大学関係者等への別紙アンケート調査「1.」「3.」等

評価の実施体制の検証

機構における評価実施体制

評価のための組織構成 （大学評価委員会・専門委員会・評価チーム・研究評価領域別「部会」）

事務局のサポート体制

改善のシステム

評価に投入された各種資源 （評価のために確保された人員・時間・経費・労力・等）

評価の目的及び内容・方法の周知・公表

【検証の視点と必要とされる根拠資料・データ】

(a) 大学評価委員会・専門委員会・評価チーム・部会等の組織の構成が、人的規模・バランスに配慮され、それぞれの組織間の連携が十分にとれていたか。委員等の選出の方法は透明かつ妥当であったか。

データ： 評価担当者へのアンケート、委員会規則、大学評価実施大綱、自己評価実施要項（委員構成、組織図）、「大学評価委員会専門委員及び評価員」の選考方針

(b) 機構の評価担当者へのサポートは十分に整備・機能していたか。「基本的枠組み」で意図された事項が、実際の評価によって達成されたかどうか。

データ： 評価担当者へのアンケート、事務分掌規程、体制図等（事務職員はどのような職務を負っていたのか）

(c) 機構の評価に関連する各層から適切に意見・要望などの情報収集を行い、それに基づいて、的確な改善に結び付けるための「改善システム」が整備され、機能していたか。

データ： 「大学評価に関する意見と機構の対応」、対象機関・関係団体への意見照会実績、それらへの対応状況

(d) 機構の評価のために確保されていた人員・時間・予算・労力等の諸資源がどの程度であったか、それは、計画された評価を実施するのに十分であったか。

データ： 評価担当者へのアンケート、大学評価実施大綱、自己評価実施要項、委員会議事要旨、予算関係資料

(e) 機構の行う評価の「目的」及び「目標」、評価活動（内容・方法等）について、機構の評価担当者等、機構内に対する周知、及び、対象機関や社会等の機構の評価に関連する機構外の各層に対する公表が、適切に実施され、十分に機能していたか。

データ： 実施済み各種アンケート、新聞報道、その他新たに収集するデータ
大学関係者等への別紙アンケート調査「3」等

大学等における自己評価実施体制

自己評価のための実施体制（評価委員会・事務局・各部局・改善システム・周知・等）

自己評価に投入された各種資源（自己評価のために確保された人員・時間・予算・労力・等）

【検証の視点と必要とされる根拠資料・データ】

(f) 対象機関において、機構の評価における「自己評価」を実施する際にどのような体制をとっていたか。

データ： 収集の必要性あり 大学関係者等への別紙アンケート調査「2」等

(g) 対象機関において、機構の評価のために確保されていた人員・時間・経費・労力等の諸資源がどの程度であったか、それは、評価を実施するのに十分であったか。

データ： 収集の必要性あり 大学関係者等への別紙アンケート調査「2」等

評価プロセスの検証

機構における評価のプロセス（評価の構造・内容・方法・研修・等）

評価項目・要素ごとの評価（評価項目・要素・観点・着目点・等）

評価方法の研修（大綱・要項・手引書・説明会・目的及び目標の事前調査・評価担当者の研修・等）

評価の実施（書面調査・根拠資料・ヒアリング及び訪問調査・評価結果原案・意見申立て・評価報告等）

【検証の視点 と 必要とされる根拠資料・データ】

- (a) 評価項目の設定が適切であったか、評価項目 要素 観点（等）の階層構造が適切であったか、活動の分類による評価（全学テーマ別評価「国際的な連携及び交流活動」）は適切であったか、判断基準や目安が明確に示され、妥当なものであったか。

データ： 評価担当者へのアンケート、対象機関に対するアンケート、大学評価実施大綱、自己評価実施要項（評価の内容・方法）、評価報告書

- (b) 「大学評価実施大綱」、「自己評価実施要項」、「評価実施手引書」、「評価作業マニュアル」等の評価の内容・方法等を記載した各種文書は、適切かつ妥当に記されており、かつ、対象機関、評価担当者にとって十分理解しやすいものであったか。

対象機関等を対象にした大学評価説明会等は、評価の趣旨や自己評価の作成に当たっての理解の助けとなるために適当な内容・形式・方法をとっていたか。

評価担当者が共通理解の下で、構成、適切、かつ円滑にその職務を遂行できるよう、大学評価の目的、内容及び方法等について十分な研修が実施できたか。

「目的及び目標に関する事前調査」は、適切に実施され、各対象機関において、明確かつ具体的な目的及び目標の整理に役立ったか。

データ： 評価担当者へのアンケート、対象機関に対するアンケート、大学評価実施大綱、自己評価実施要項、評価実施手引書、評価作業マニュアル、大学評価説明会開催要項・資料・Q&A、評価担当者研修資料、目的及び目標に関する事前調査結果（専門委員会資料）、等

- (c) 書面調査の方法が適切であり、評価結果を導くために効果的な方法がとられていたか。

評価のための必要な根拠資料の求め方（示し方）は適切であったか。

ヒアリングや訪問調査は、日程や、不明点への回答期限などが、対象機関に配慮したものであったか、ヒアリング・訪問調査における機構の評価担当者・事務局等の対応は適切であったか。

評価結果原案の作成方法、意見申立てへの対応は適切であったか。

評価報告書の公表方法は適切であったか。

データ： 評価担当者へのアンケート、対象機関に対するアンケート、評価作業マニュアル、「教養教育」評価における根拠資料に関する基礎データ、ヒアリング・訪問調査の日程表、専門委員会等の評価スケジュール、専門委員会等の議事録、評価報告書、機構 Web ページ

「評価のプロセス」において不足分については収集の必要性あり

大学関係者等への別紙アンケート調査「3」等

対象機関における評価のプロセス（評価の構造・内容・方法・研修・等）

自己評価の実施

機構の評価プロセスにおける対象機関の対応

（根拠資料不足等による不明点等の問い合わせに対する対応・ヒアリングあるいは訪問調査への対応・等）

【検証の視点と必要とされる根拠資料・データ】

(d) 対象機関における自己評価（目的及び目標の整理・根拠資料の収集・各項目等における自己評価・自己評価書の記述・等）はどのように実施されたか。

データ： 評価担当者へのアンケート、対象機関に対するアンケート、自己評価実施要項、その他新たに収集するデータ 大学関係者等への別紙アンケート調査「3」等

(e) 機構の評価プロセスにおける機構側からの根拠資料不足等による不明点等の問い合わせに対する対応、ヒアリングあるいは訪問調査への対応、評価結果に対する意見申立てに関わる対応等は、どのように実施されたのか。

データ： 評価担当者へのアンケート、対象機関に対するアンケート、自己評価実施要項、ヒアリングあるいは訪問調査時の評価シート、意見申立て

評価の「結果」に関する検証

評価実施の結果

評価結果の適切性・評価報告書の内容の適切性

機構及び評価担当者の負担等（最終的に機構の投入した人員・労力・時間・経費・評価担当者の労力）

対象機関側の負担等（最終的に対象機関の投入した人員・労力・時間・経費・等）

【検証の視点と必要とされる根拠資料・データ】

(a) 評価報告書に記載された評価結果は適切なものであったか、評価報告書の記載内容は適切なものであったか、また、それは、対象機関の活動の改善に向けて有効なものであったか。

データ： 対象機関に対するアンケート、意見申立て、評価報告書、新たに収集するデータ 大学関係者等への別紙アンケート調査「4」等

(b) 機構が実際に投入した人員・労力・時間・経費はどの程度であったか、それらは、当初確保されていたもので十分であったか。

評価担当者実際に投入した労力・時間はどの程度であったか、負担感はどの程度のものであったか。

データ： 委員会記録、経費関係資料、評価担当者に対するアンケート

(c) 対象機関が実際に投入した人員・労力・時間・経費はどの程度であったか、それらは、当初確保されていたもので十分であったか。

データ： 収集の必要性あり 大学関係者等への別紙アンケート調査等「2」等

評価の「成果」に関する検証

機構における評価の成果・効果

評価経験の蓄積・評価手法の改善

評価担当者等の満足度・負担感

【検証の視点 と 必要とされる根拠資料・データ】

- (a) 機構は、評価経験を蓄積し、それに基づいて、評価手法の改善に適切に取り組んだか、また、その改善は実際に成果があったか。

データ： 対象機関に対するアンケート、評価担当者に対するアンケート、自己評価実施要項、評価実施手引書、評価作業マニュアル、新たに収集するデータ
大学関係者等への別紙アンケート調査「4.」「5.」等

- (b) 評価担当者の評価全般にわたっての満足度・負担感はどの程度のものであったか。

データ： 評価担当者に対するアンケート

対象機関における評価の成果・効果

対象機関の目的及び目標、教育研究活動等の状況の把握

評価経験の蓄積・自己評価の質の向上

評価の機関内への浸透・改善やマネジメントへの意識変化

教育研究活動の改善への取組・機関の独自性の促進

【検証の視点 と 必要とされる根拠資料・データ】

- (c) 対象機関は、教育研究活動等の目的及び目標、その活動の状況等を、評価結果を通じて的確に把握したか。

データ： 収集の必要性あり 大学関係者等への別紙アンケート調査「4.(2)」等

- (d) 対象機関は、評価経験を蓄積し、自己評価の質を向上させたか。

データ： 収集の必要性あり 大学関係者等への別紙アンケート調査「4.(2)」等

- (e) 対象機関では、評価の趣旨等が機関内に浸透し、評価を通じて、活動の改善や対象機関のマネジメント等に関して意識変化が見られたか。

データ： 収集の必要性あり 大学関係者等への別紙アンケート調査「5.」等

- (f) 対象機関において、教育研究活動の改善への取組がどのように行われ、実際に、どの程度の改善が実現されたか。また、各機関の独自性をどの程度促進することができたか。

データ： 収集の必要性あり 大学関係者等への別紙アンケート調査「5.」等

社会における評価の活用・効果

マスメディア・Web 等による評価結果の取扱い

政府及び公的機関、その他の公的評価等における当該評価結果の活用

社会（対象機関関係者・入学志願者・産業界等）による評価結果の活用

「評価」に対する社会の理解の深まり

【検証の視点 と 必要とされる根拠資料・データ】

(g) マスメディアや Web ページ等において、機構の評価結果がどのように取り扱われ、それは適切であったか。また、社会にどのようなインパクトをもたらしたか。

データ： 新聞報道、Web ページ、等

(h) 政府及び公的機関において、機構の評価結果がどの程度活用されたか。

データ： 収集の必要性あり 大学関係者等への別紙アンケート調査「5 .」等

(i) 対象機関の外部関係者、大学の入学志願者、大学等の知的資源に関する教育サービスのニーズをもつ一般の人々、大学の卒業生を受入れたり、また、大学等との連携のニーズをもつ産業界等が、当該評価結果をどのように活用されたか。

データ： 収集の必要性あり 各関係者に委員会、シンポジウム等に参加を要請？

(j) 社会において、機構の評価の趣旨や方法などがどの程度理解され、浸透したか。

データ： 収集の必要性あり 各関係者に委員会、シンポジウム等に参加を要請？

試行的評価の総合的評価

総合的評価の観点

試行的評価の「基本的枠組み」・「目標」等の達成度

「大学等の教育研究活動の改善（大学の質の向上）」の達成度

「社会の理解と支持の増大（アカウンタビリティ）」の達成度

その他の試行的評価を通じた予期せぬ効果・効率性（費用効率等）・持続可能性

試行的評価の総括

前項までに収集・蓄積された検証結果に基づいて、
以上のような観点に関して、総合的に、試行的評価の総括を行う。
必要に応じて、総括シンポジウム、座談会などを利用する。